

県央・湘南の 環境と共生する都市づくり

No.19

NEWS ○ 2007.11

● 新幹線新駅の実現をめざす、環境共生の都市づくり通信 ●



県民フォーラム「新幹線新駅と地域づくりを考える」を開催します!

神奈川県東海道新幹線新駅設置促進期成同盟会では、県民フォーラム「新幹線新駅と地域づくりを考える」を開催いたします。当日は、慶應義塾大学の駒井教授による新駅設置の経済効果に関する基調講演のほか、神奈川県の松沢知事も参加してパネルディスカッションなどを行う予定です。

※お問い合わせは、期成同盟会事務局（神奈川県県土整備部 県土整備総務課（電話045-210-6038）まで

- 日時 11月25日（日）14時～16時
- 場所 寒川町民センター ホール
（JR寒川駅より徒歩10分）
- 内容 講演、パネルディスカッション、
絵画コンクール表彰式
- 出演 慶應義塾大学教授 駒井 正晶
神奈川県知事 松沢 成文
産業能率大学教授 斉藤 進
東海大学教授 杉本 洋文

目 次

- 2～3P 「見直し」、「受け継ぎ」、「共に考える」“環境と共生する都市” 県央・湘南都市圏の創造へ向けて
～産業能率大学経営学部教授兼地域環境研究所長 斉藤 進～
- 4～5P 進む交通基盤整備 ～県央・湘南都市圏の整備状況～
- 6P コラム「新駅に期待する」
- 7P ・平成19年度総会を開催しました ・地権者への意向調査を実施しました
- 8P 県央・湘南の魅力再発見／神奈川県東海道新幹線新駅設置促進期成同盟会



神奈川県東海道新幹線新駅設置促進期成同盟会

〔 神奈川県、平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、相模原市、厚木市、伊勢原市、海老名市、座間市、
綾瀬市、寒川町、県市長会、県町村会、県商工会議所連合会、県商工会連合会 〕

「見直し」、「受け継ぎ」、「共に考える」 “環境と共生する都市” 県央・湘南都市圏の創造へ向けて

産業能率大学経営学部教授兼地域環境研究所長 齊藤 進

■「ツインシティ構想」のこれまでを振り返る

神奈川県県央・湘南都市圏を対象に、「環境と共生する都市づくり」をスローガンとして将来都市圏の整備方針が立てられたのが、かながわ新総合計画21（平成9年4月）であった。その際、以前より地元要望の強かった新幹線新駅誘致を図り、環境共生都市の実現を目指すとして考えられたのが「ツインシティ構想」（平成9年11月 神奈川県東海道新幹線新駅設置促進期成同盟会による提案）である。

その後神奈川県では、期成同盟会と協力し県央・湘南都市圏の整備構想として基本計画づくりを進めてきた。またこの計画策定の過程では、多くの県民にツインシティ構想の考え方を知らせ、関心を高めてもらうため、県民参加フォーラムが各地で開催された。そこでは県民協働による議論の下、県民の多様な考えやアイデアが披露され、活発な議論が戦わされた。こうして平成12年3月に基本計画がまとめられた。

こうした計画の検討が進められてきた中で、私自身がこの都市づくりに関わったのは平成11年・12年度における大神地区（平塚市）基本計画立案のための研究会からであり、かれこれ10年近くこの都市づくりに関わらせていただいたことになる。

この10年近い計画検討の時間を振り返ってみると、地域社会の将来に関わる都市づくりを協働で検討することの重要性を改めて強く感じている。

ここではこうした経緯を踏まえた上で、私たち都市住民が新たな環境観として共有可能な「環境と共生する都市づくり」について、今後更に考えるべき論点を整理しておきたい。



■「ツインシティ構想」の歴史的意義を検証する

約1万年前の農業革命は、世界各地に豊かな自然を中心とした「自然共生型文明」を創り出し、その後、約5000年前には地球の寒冷化と乾燥化が進み大河川流域に人口が移動しインダス文明やメソポタミア文明を生み出した。こうした厳しい自然に対抗する姿勢は、やがて都市生活者の意識を、自然との共存から自然の克服へと変えていった。さらに18世紀の産業革命は、都市の巨大化や集中化を一層進め、その結果として人工化し過ぎた都市環境に不安が高まった。この時期にイギリスでは、こうした都市化への対抗として田園都市の考え方が構想されたが、工業化・近代化は止まることなく、20世紀の大量生産・大量消費社会へと突入する。この頃から地球環境を危惧する声は益々大きくなり、持続可能な開発やエネルギー問題（経済のワンウェイシステムによる環境負荷の大きい社会・経済システムへの危惧）がクローズアップされる。

ここに至って地球レベルでの環境保全と都市活動・産業活動のあり方が問い直され、また都市型のライフスタイルも大きな課題となった。

多少大げさな表現となるが、ツインシティ構想が目指す都市づくりとは、実はこうした歴史的背景の下に、日本における環境共生都市の“形”を追及することだと考えている。

そこには、地球の有限性を前提に、社会の持続性、環境負荷の少ないライフスタイル、廃棄物の最小化（発生抑制）、物質のリサイクル・リユース、再生可能エネルギーの利用、車依存社会からの転換といった課題解決へ向け、自然生態系を重視する都市形成や自然との共生可能な社会システム、地球的視野からの都市活動のあり方が問われている。

■これからの都市づくり「ツインシティ構想」に求められる視点

この場合、新たな都市づくりの視点として、「守り、残すことからの都市づくり」、「時間をかけて育む都市づくり」、「共に考える都市づくり」が重要と考えている。

ここでは紙幅の関係から詳細は省略するが、最初の視点は“みず”や“みどり”、“かぜ”といった自然環境（地域固有資源）をまず計画条件とする「見直しの発想」であり、2番目の視点は、地域環境の次世代継承を可能とする「受け継ぐための発想」であり、3番目の視点は、環境主体としての市民・行政・事業者の責任と自覚、そして連携による「共に考える発想」を意味している。

こうした視点の下に、地域固有の環境資源を計画の前提とする、海・山・川の自然環境相互のつながりをこれまで以上に強める、豊かな新たな追求として消費・奢侈型ライフ

スタイルからの離脱を進める、循環・再利用型生活スタイルの積極導入を図る、車依存社会を見直し環境にやさしく誰もが移動可能な交通手段の導入を進める、世代を超えて受け継がれ、時間と共に熟成する環境都市とする、環境学習を進め環境主体としてのひとつづくりとコミュニティづくりを進めることなどがこれからの計画課題としてあげられる。

先に述べたように、この10年間の計画検討により、次世代に向けた環境共生型都市づくりの考え方として多くのアイデアや知恵が集まった。例えば、現在、私も参加し協議が進行中である「ツインシティ整備に関わる企業・大学懇談会」（平成16年12月設立）では、環境共生都市づくりのため18の提言（中間とりまとめ提案を平成18年11月県知事に提出）がまとめられている。



こうした地域からの英知を一つひとつ積み重ねながら、日本初の環境と共生する都市づくりへ向け、ツインシティ構想の検討に取り組む必要があると考えています。

齊藤 進 (さいとう すずむ)

産業能率大学経営学部教授兼地域環境研究所長 専攻 地域政策論、まちづくり参加論

- 1975年 早稲田大学大学院理工学研究科 修了
- 1979年 産業能率大学システム開発研究所 入所
- 1995年 産能大学経営情報学部助教授
- 1999年 産能大学経営情報学部教授
- 2003年 地域環境研究所長
～現在に至る
- 2006年 産業能率大学（校名変更）経営学部教授
～現在に至る



進む交通基盤整備 ～県央・湘南都市圏の整備状況～

県央・湘南都市圏では、ネットワーク型都市圏の形成に向けて、現在、様々な交通基盤の整備が進められております。ここでは、その中の主要なものについて、ピックアップしてみました。

さがみ縦貫道路の整備

さがみ縦貫道路は、首都圏中央連絡自動車道の一部を構成する自動車専用道路で、県の中央部を南北に縦貫し、県央・湘南都市圏の活性化に大きく寄与する道路です。

現在、平成21年度から24年度までの完成を目指し、鋭意事業が進められており、写真のとおり、着実にその姿を現し始めています。



海老名北JCT

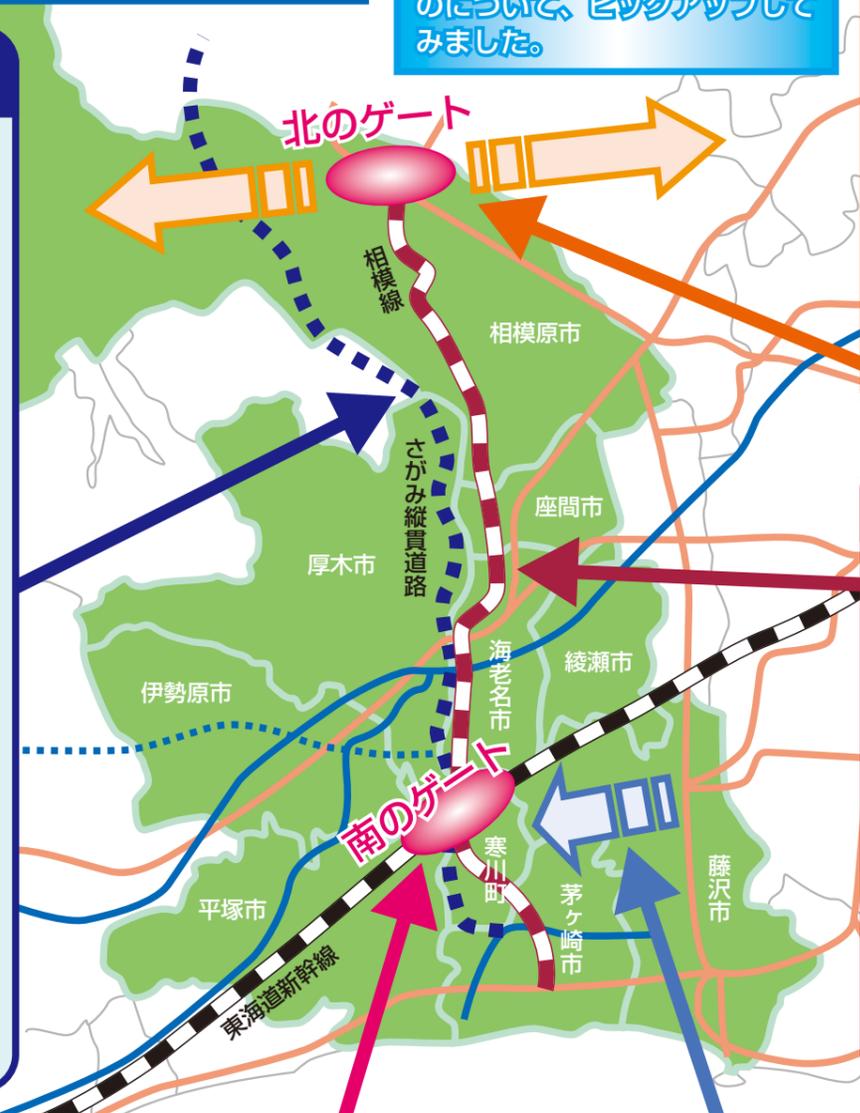
▼国土交通省HPより



寒川町宮山付近



寒川町田端付近



北のゲート

南のゲート

リニア中央新幹線

リニア中央新幹線は、首都圏から近畿圏までを、超電導リニアで結ぼうとするもので、現在山梨県にある実験線で研究が進められております。

県及び市町村等からなる同盟会では、リニア中央新幹線の早期実現と、県内停車駅誘致に向けた取組を進めています。

トピックス

先般、JR東海から「山梨リニア実験線を自己資金により42.8kmに延伸したうえで、平成37年に首都圏～中京圏での営業運転を開始することを目指していきたい」との発表がなされました。



山梨実験線のリニア

相模線複線化の促進

現在の相模線は、首都圏では数少ない単線で運行されており、速度や本数などのサービスレベルが低い状況にあります。



行違い不能駅の状況(香川駅)

段階的整備

- 第1ステップ：3駅行違い化
- 第2ステップ：全駅行違い化
- 第3ステップ：部分複線化
- 第4ステップ：全線複線化

このため、県及び関係市町等では複線化に向けた取組を進めており、その第1ステップとして、上溝駅・厚木駅・香川駅の3駅の行違い施設整備に向けた検討を行っています。

東海道新幹線新駅の誘致

本同盟会では、全国各地との交流連携の窓口として、寒川町倉見地区に東海道新幹線新駅誘致に取り組んでいます。

また、その受け皿となるまちとして、相模川を挟んだ両地区を環境共生モデル都市「ツインシティ」としての整備に取り組んでいます。



相模川を渡る東海道新幹線



新型車両N700系

相鉄いずみ野線の延伸

東海道新幹線新駅のアクセスとして、また、県央・湘南都市圏内の主要な公共交通ネットワークの形成に向けて、相鉄いずみ野線のツインシティへの延伸について取り組んでいます。



提供：(財)計量計画研究所

左の写真は、近代的な路面電車ともいわれるLRTの車両で、いずみ野線の延伸については、このようなシステムも対象として比較検討を行っています。



相鉄10000系

提供：(財)計量計画研究所

☆ コラム

新駅に期待する

このコーナーでは、県央・湘南都市圏の首長や業界団体の代表者の方々に新駅等への期待をお話いただきます。

「元気な伊勢原・ふるさとづくり」をめざしてまちづくりを進めています。



藍色の空と紅葉と光の三重奏(大山寺)

大山寺から市街地を望む

伊勢原市長 長塚 幾子
ながつか いくこ



〈プロフィール〉

1953年伊勢原生まれ。早稲田大学第一文学部卒。民間企業勤務を経て翻訳や主任児童委員、NPO法人理事など児童福祉の分野で活動。伊勢原市議会議員の後、2004年10月市長就任。

豊かな自然に恵まれ長い歴史を持つ私たちのまち伊勢原は、先人たちのたゆまぬ努力のおかげで、農業や商工業などの産業と人々の暮らしが調和する首都近郊都市として成長してきました。

21世紀が始まり、伊勢原にはこれまで私たちが経験したことのない、さまざまな変化が生まれつつあります。

伊勢原市においては、第二東名自動車道、国道246号バイパスの整備が着実に進んでいる状況です。第二東名自動車道については平成32年度に開通、国道246号バイパスについては、今後10年間にわたって暫定的ではありますが開通するという目標年度が示されています。これらの道路は、さがみ縦貫道（首都圏中央連絡自動車道）との連携により、広域的な道路交通ネットワークの構築による地域の活性化とツインシティ地区を中心とする地域のまちづくりにおいて、重要な役割を担っています。

これらの整備は、今後、伊勢原の姿を大きく変えるものと思われ、このような社会情勢のなかで市民生活が着実に向上するようなまちづくりをしていかなければなりません。

また、高速鉄道を含めた交通ネットワークの構築という観点からも、県央・湘南都市圏の多くの県民と一緒に盛り上げていく必要があります。そのためにも、新駅設置についての具体的な整備内容やスケジュールなどを早期に示すことが必要と思われる。特に、ツインシティの西部地域に位置する伊勢原方面と結ぶ道路軸（伊勢原大神軸）の具現化により、関係地域及び県西地域全体の活性化も一層図られることを大いに期待しています。

今後とも、神奈川県東海道新幹線新駅設置促進期成同盟会、並びに近隣市町や関係機関と連携を図り、新駅の誘致活動を促進するとともに、ツインシティ整備の早期実現を願っております。

市章



(昭和32年9月1日制定)

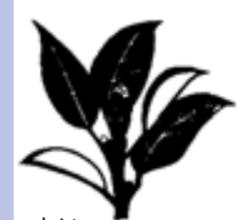
市の花



ききょう

(昭和47年3月1日制定)

市の木



しい

(昭和47年3月1日制定)

市の鳥



やまどり

(昭和47年3月1日制定)

市章は、「イセ」の文字を図案化したもので、市政の円満を意味しています。伊勢原を象徴し市政の限りない発展を表しています。

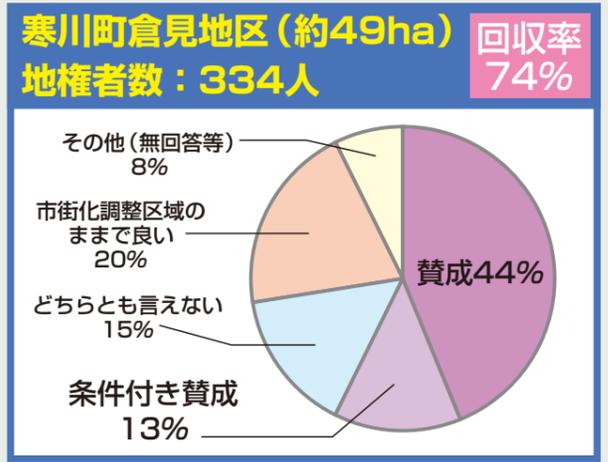
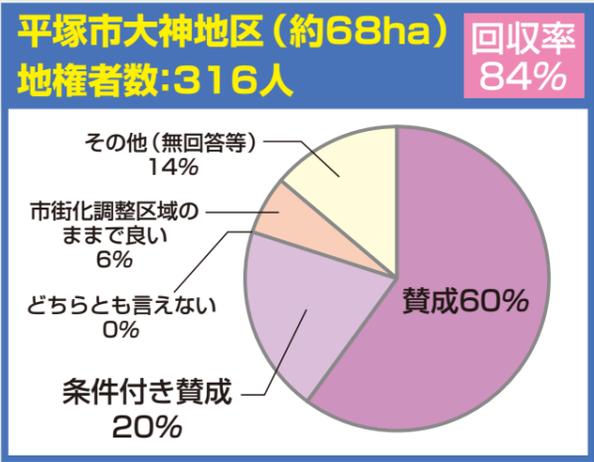
地権者への意向調査を実施しました ～地権者への意向調査結果について～

神奈川県では、平成20年度末を目途に、第6回線引き見直し※1が予定されております。ツインシティの計画を進めるため、この線引き見直しにおいて、ツインシティ予定地の平塚市側と寒川町側の両地区の市街化調整区域を特定保留区域※2に位置づけるための取組を進めておりますが、その一環として、平塚市及び寒川町が、地権者の方々の意向を把握するため、平塚市側は2月に、寒川町側は6月にアンケート調査を実施いたしました。

主な調査結果として、市街化区域への編入についての意向は、下のグラフのとおりでした。こうした結果を踏まえて、今後とも、県、平塚市、寒川町が連携をとりながら、引き続き地権者の方々等との協議を進め、ツインシティ整備の早期実現に取り組んでまいります。

※1「線引き見直し」：市街化区域と市街化調整区域の区分を都市計画に定めること。
※2「特定保留区域」：線引き見直し時において設定することができる市街化調整区域から市街化区域への編入を保留する区域。位置及び区域等が明示され、計画的な市街地整備の見通しが明らかになった段階で、随時市街化区域に編入できる。

市街化区域への編入について



神奈川県東海道新幹線新駅設置促進期成同盟会 平成19年度総会を開催しました

平成19年8月3日(金)、神奈川県東海道新幹線新駅設置促進期成同盟会平成19年度総会を開催しました。

当日は、同盟会の決算、予算案、事業計画案等の審議が行われました。

また、総会終了後、JR東海へ新駅設置に関する要望を実施しました。

当日承認された平成19年度事業計画と、総会決議については、以下のアドレスからご覧になれます。

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/kendosomu/kankyoku-kyousei/shin-eki/19soukai.html>



松沢知事(同盟会会長)のあいさつ

県央・湘南の魅力再発見!

新幹線新駅ができれば、魅力あふれるこの地域を全国の皆さんに発信することができます。
今回は、県央・湘南地区の観光スポットをいくつかご紹介します。



神奈川県東海道新幹線新駅設置促進期成同盟会

神奈川県東海道新幹線新駅設置促進期成同盟会（平成8年5月発足）では、寒川町倉見地区への東海道新幹線新駅の誘致活動を行っています。同盟会を構成する県市町の窓口は、次のとおりです。

県・市町担当窓口		厚木市	市政企画部広域政策課	046-223-1511(代)	
神奈川県	県土整備部県土整備総務課	045-210-6038(直)	伊勢原市	都市部都市総務課	0463-94-4711(代)
平塚市	都市整備部都市整備課	0463-23-1111(代)	海老名市	まちづくり部駅周辺対策課	046-231-2111(代)
藤沢市	計画建築部都市計画課	0466-25-1111(代)	座間市	企画財政部政策課	046-255-1111(代)
茅ヶ崎市	都市部都市政策課	0467-82-1111(代)	綾瀬市	企画部企画課	0467-77-1111(代)
相模原市	まちづくり計画部都市交通計画課	042-754-1111(代)	寒川町	都市建設部新幹線新駅対策課	0467-74-1111(代)

東海道新幹線新駅の誘致活動については、期成同盟会のホームページでご覧いただけます。
<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/kendosomu/kankyoku-kyousei/shin-eki/>

発行

神奈川県東海道新幹線新駅設置促進期成同盟会〔事務局：神奈川県県土整備部県土整備総務課〕
〒231-8588 横浜市中区日本大通1
電話：045-210-6038 ファックス：045-210-8879
Eメール：下記のホームページの問い合わせフォームをご利用ください。
<http://www.pref.kanagawa.jp/sosiki/kendo/0700/index.html>

R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています